

Costume and Textile

No.14

服飾文化学会会報

2007年10月



夏期セミナー 懇親会にて

2007（平成19）年度 第8回総会・大会の報告

服飾文化学会第8回総会・大会は、2007(平成19)年5月19日(土)・20日(日)に、お茶の水女子大学大学本館を会場として開催された。会員の参加者86名、非会員の参加者8名を得て、研究発表・作品展示発表、それに関わる質疑応答が展開された。特別講演と見学会もそれぞれ多くの聴講者と参加者を集め、充実した日程をこなして盛会のうちに終了することができた。

1) 口頭発表

初日には伊藤紀之会長の挨拶に引き続き8件の研究発表が、二日目には5件の研究発表が、大学本館306室にて行われた。日本と西洋における服

飾・染織史、装束の修復、被服心理学、繊維製品リサイクル、制服産業、縫製技術、また人形芸術にいたるまで、例年に劣らず広範な内容の研究結果が発表された。

対象と方法、あるいはテーマが多岐にわたることはもちろん、さらに扱う資料も遺品・実物から文書、図像資料まで多彩であり、服飾研究の領域の豊かさを再認識するとともに今後の展開への期待を改めて感じさせる機会であった。いずれの発表もパワーポイントを用いて画像や図表を提示し、明快で説得力ある発表に質疑応答が活発に行われた。



口頭発表会場



展示発表会場

2) 展示発表

タペストリー、手織布、名古屋帯、ワンピースドレス、チュニックドレス、タウンウェア、フォーマルウェア、ジャケット、絞り着物、ドレス・オブジェなど、11名の発表者による多彩な作品が大学本館209室に展示された。いずれも新たな素材と技法を駆使し、意欲的なコンセプトによって斬新なデザインを追求した作品であった。展示は、机上で、あるいはマネキンやボディ、衣桁等により工夫を凝らして行われた。

二日目には、研究発表に引き続き、作品についてのショートスピーチが行われた。創作の経緯が語られたスピーチには多くの参加者が熱心に聞き入り、デザイン、技法、素材等、作品の詳細に関して多くの質問があり、会場は活況を呈した。

3) 特別講演

「モダニズム期日本の工芸産業と女性：今井和子の留学体験と自由学園工芸研究所」と題し、近代デザイン史・イギリス表象文化論を専門とされる菅靖子・津田塾大学助教授の講演が行われた。

講演は、フェミニズム思想に端を発した自由学園の工芸活動が、ナショナル・アイデンティティの形成に組み込まれて国家の思惑に添ったかたちで展開したことを、工芸研究所で中心的な役割を果たした今井和子の活動を通して跡付けたものである。

今井は1930年代初頭に自由学園からヨーロッパへ派遣され、西洋のデザインの新たな動向をブラハ国立工芸学校、イッテンシュレー、そして服飾デザインに力を入れていたライマンシュレーで学

んだ。帰国後の活動は、日本の輸出工芸振興の思惑と絡みあうことになり、彼女のデザインのモダニティは、国策としてのモダンな工芸産業と重なっていった。

講演は、近代工芸の意味を、国家の表象とフェミニズム、あるいはナショナリズムとジェンダーの交差の中で解いた興味深い内容であった。また多くの図像資料が示され、丁寧に明快な解説がなされ聴講者にたいへん好評であった。



特別講演 菅靖子氏

4) 第8回総会

蔵方宏昌理事の司会で2007(平成19)年度総会が開催された。最初に伊藤紀之会長の挨拶、開催校の実行委員長の挨拶があり、議事に先だって議長として柳原美紗子氏を選出した。2006(平成18)年度の事業報告、会計報告があり、続いて2007年度の事業計画案、予算案が審議され了承された。

5) 懇親会

総会の後、茗溪会館に会場を移し、52名の参加者に講演者の菅靖子氏を交えて懇親会が開かれた。

蔵方理事の司会により、石井とめ子前会長の乾杯で開会、歓談と食事を楽しみ、和やかな雰囲気の中なかで閉会となった。



見学会 21_21DESIGN SIGHT

6) 見学会

71名の参加者を得て、見学会は塚田耕一理事の解説によって、2007年3月末にオープンした六本木の東京ミッドタウンで行われた。安藤忠雄の設計になるデザイン・センター (21_21DESIGN SIGHT)、隈研吾によるサントリー美術館、黒川紀章による新国立美術館の建築・設計について知見を得るとともに、特別展を鑑賞する企画であった。

見学に先だって大学会場にて見学会の説明が行われた。塚田理事の準備されたパンフレットによりミッドタウン内施設の概略の説明を受けた後、昼食をはさんで、現地のデザイン・センター前に集合、建物を鑑賞しながら解説を聞いた。続いて21_21DESIGN SIGHTの特別展「チョコレート」を鑑賞した。その後、向いにある建物3階のサントリー美術館へ移動、会場入口で設計について解説を聞いた後、開館記念展「日本を祝う」を鑑賞した。国立新美術館特別展の鑑賞は自由行動とした。

21_21DESIGN SIGHTは三宅一生等、日本を代表するデザイナーの運営になり、新しい文化発信拠点として期待されている。デザイン・センターの建築上の最大の特徴は一枚の巨大な鉄板で屋根を覆うところにあるが、この発想は三宅一生の一枚の布のコンセプトにあったという。日本の建築とデザインの新たな出発を認識できた充実した見学会であった。(総会・大会実行委員長 徳井淑子)

《2007年度 総会・大会プログラム》

5月19日(土)

13:30 開会の挨拶 学会長 伊藤 紀之

13:35~15:30

【口頭発表】

◆座長 杉田 洋子 (國學院大學栃木短期大学)

A-1 人形芸術・様式の展開とその周辺(IV)

—様式分類からの一考察—

澤村英子 (山野美容芸術短期大学)

A-2 循環型の生活文化形成のための基盤研究(1)

—繊維製品再生利用過程の概要と課題の整理—

玉田真紀 (尚絅学院大学)

A-3 大正・昭和前期における学生服の生産

—岡山県倉敷市児島を事例に—

難波知子 (お茶の水女子大学大学院)

◆座長 大網美代子(大妻女子大学)

A-4 匠の技<クセ取り>を解明する

—3次元CADを使って熟練業を考察—

五十嵐かつ代 (神戸服装専門学校)

A-5 ソーイングマガジンに見られるパンツのデザインと縫製

方法について —2001年~2005年FEMALEをもとに—

杉田慶子 (樟蔭東女子短期大学)

◆座長 鍛島康子(実践女子大学)

A-6 18世紀初期フランスの礼儀作法と服飾のコモディテ

内村理奈 (大妻女子大学非常勤講師)

A-7 《カフェを飲むスルタンヌ》におけるボンパドゥール

夫人のトルコ風衣装

林 精子 (青山学院大学非常勤講師)

A-8 18世紀フランスにおけるイギリス・モード

—ブチ・メートルの変化—

西浦麻美子 (お茶の水女子大学研究員)

15:30~17:00

【特別講演】 菅 靖子 氏 (津田塾大学助教授)

モダニズム期日本の工芸産業と女性

—今井和子の留学体験と自由学園工芸研究所—

17:00~17:30

【総 会】

18:00~19:30

【懇親会】 会場：茗溪会館

5月20日(日)

9:30~10:45

【口頭発表】

◆座長 長崎 巖 (共立女子大学)

B-1 御所解文様みる「通小町」の表現

—屋形のない車の文様を中心に—

岡松 恵 (奈良女子大学大学院)

- B-2 装いに対する印象と観察者側の要因との関連
杉田洋子 (國學院大學栃木短期大学)
- B-3 能装束の修理から得られる知見について
須藤良子 (日本女子大学大学院)
- ◆座長 常見美紀子 (京都女子大学)
- B-4 《愛》、《オルガン》、《悦楽》: 1925年現代産業装飾
芸術国際博覧会におけるポール・ボワレ
朝倉三枝 (お茶の水女子大学大学院)
- B-5 ジョルジュ・サンドの作品にみる服装の象徴
ー1839年の対話式小説『ガブリエル』における女主人
公の異性装ー
新實五穂 (お茶の水女子大学非常勤講師)

10:50~11:55

【展示発表】

- ◆座長 佐藤泰子 (文化女子大学)
- C-1 織物作品による後染染色の効果の検討
ータペストリー制作ー
池田節子 (相模女子大学短期大学部)
- C-2 繊維と金属線の融合
佐久間恭子 (女子美術大学)
- C-3 「モラ」手法を用いた名古屋帯の製作
ー日本文様を用いてー
松本幸子 (東京家政学院大学)
- C-4 ミニマムカッティングのドレス
ー滝をイメージしてー
小田巻淑子 (東京田中短期大学)
- ◆座長 清水久美子 (同志社女子大学)
- C-5 北方民族の服飾からイメージしたドレスⅢ
ーアイヌの衣服文様からー
泉山幸代 (北翔大学短期大学部)
- C-6 バルーン・表現の試作
梶間充子 (蘭田学園女子大学短期大学部)
- C-7 ワンピースドレス (ヨーヨーキルトを用いて)
角田千枝 田中百子 (相模女子大学短期大学)
- ◆座長 岡田宣世 (女子美術大学)
- C-8 伝統柄からのデザイン 第1報 銘仙1 大花
内藤千文 (大阪女子短期大学)
- C-9 服飾デザインにおける浜ちりめんの適応性
ーフォーマルウェアのデザインー
森下あおい (滋賀県立大学)
- C-10 common suit ー男・女が共用できるジャケットの試作ー
田中美智 (川村学園女子大学)
- C-11 紬地藍巻き上げ絞り着物
川井悠里衣 (紋芸美術協会)

11:55~12:10

【見学会説明】

13:30~16:00

【見学会】

解説・塚田耕一氏

六本木「東京ミッドタウン」探訪

21_21DESIGN SIGHT、サントリー美術館、国立新美術館

2007年度 研究例会の報告

本年度第1回の研究例会は以下のスケジュールで行われた。

日時 2007年6月23日(土)

集合 杉野学園衣裳博物館 13:00

日程 13:00~14:00

杉野学園衣裳博物館「マネキンの黎明期

一向井良吉とその仲間たち」展見学

14:00~16:00

同展記念講演会

(杉野学園第4校舎3階4030教室)

講師 大野木啓人氏 (京都造形芸術大学)

鈴木美和子氏 (杉野服飾大学)

16:00~

東京都庭園美術館「大正シック展」見学



杉野学園衣裳博物館展示



マネキンの黎明期展にて

当日のメインは、杉野学園衣裳博物館開館50周年を記念して開催された企画展「マネキンの黎明期一向井良吉とその仲間たち」展の見学と、それに関連して行われた記念講演会参加にあった。

ご存知の会員の方も多いと思うが、杉野学園衣裳博物館は、1957年(昭32)に開館した日本で最も古い衣裳博物館である。杉野学園の創立者杉野



講演会場、大野木啓人先生の講演

芳子は、数度の欧米視察を通して西洋衣裳の実作に触れることの重要性に気付き同館を設立したのだった。以来、半世紀に亘って同館は教員や学生の教育施設として機能するとともに一般にも公開され欧米文化理解の役割を担ってきた。

ウォルトやフォルチュニイの衣裳収蔵展示で知られる同館であるが、意外な名品が同館を特色づけていることは余り知られていなかった。それはマネキンである。杉野芳子は、ヨーロッパで蒐集した衣裳を展示するために、向井良吉を始め、村井次郎、大森達郎といった日本のマネキンの基礎を築いた彫刻家に展示用マネキンの制作を依頼したのだった。向井らは、これに応えて、衣裳に相応しい表情とポーズを備えたマネキンを一体一体制作した。こうして、昨今の量産マネキンとは全く異なる、彫刻作品とも呼びうるマネキンたちが誕生したのである。

このマネキンたちに焦点を当てて企画展を開こうという話がもちあがったのは一年半も前のことだったろうか。以来、何回もの企画会議がひらかれ七彩(七色)のご協力や、向井良吉氏の真弟子の大野木啓人先生(京都造形芸大)のご助力を得て、このユニークな企画展は実現の運びとなった。

研究例会としてこの「マネキンの黎明期」展を採り上げては、との提言を伊藤紀之会長から受け

たのは学会大会の際であった。記念講演会に合わせてということで日時を6月23日(土)に決定、大学や品川区教育委員会と調整して学会用に最前列に20席を確保して当日を待った。なんと、参加者はピッタリ21名。

まず、衣裳博物館展示を見学。今までと違った視点でマネキンの美を理解してくださったことと思う。次の記念講演会で、大野木啓人先生の講演の後、質疑応答に移ったが、前列を占めた学会員からの質問が相次ぎ、会が盛り上がったのは「さすが」だった。当日は、丁度、杉野記念館で「島田順子展」も開かれていた。学会員の方々の一部はそれも見学され、三々五々最後の目的地である庭園美術館へ向かった。

葉書での「お知らせ」に書いたように、「初夏の午後をセピア色の展覧会で楽しんで頂け」たであらうか。それならうれしいのですけれど。

(研究例会担当 塚田耕一)

2007年度 第8回夏期セミナーの報告

スケジュール

8月7日(火)

14:10 JR米子駅前集合・ホテルへ出発

14:50~17:20 シンポジウム「私の服飾研究」

18:00~20:00 懇親会

8月8日(水)

8:00 ホテル発(貸し切り観光バス)

9:45~11:45 福井貞子かすり資料館訪問

12:00~ 昼食、倉吉市内散策

13:30~16:00 三朝温泉、倉吉餅、市内の班別行動

16:10 バスに集合、倉吉発

18:10 ホテル帰着→自由行動

8月9日(木)

8:20 ホテル発(貸し切り観光バス)

9:00~10:20 足立美術館見学

10:30~12:00 広瀬餅センター、天野工房訪問

12:00~13:00 弁当(バス中昼食)

13:00~13:50 水木しげるロード散策

14:00~15:00 弓浜がすり伝承館訪問

15:15 米子空港(解散)

15:25 アジア博物館前(解散)

15:45 JR米子駅(解散)

本年度のセミナーは、非会員8名(内4名はシンポジウムのみ出席)を含む合計45名の参加を得て、2007(平成19)年8月7日(火)～9日(木)の3日間、山陰の米子市近郊で実施された。今回のセミナーは、県指定の無形文化財である山陰の3大絣産地(倉吉絣、広瀬絣、弓浜絣)の見学を主軸に、足立美術館、古都倉吉、水木しげるロード、三朝温泉などを配し、更にシンポジウム「私の服飾研究」を共催したものであった。

訪問先間を移動するバスの車窓からは、見る角度によって山容を変える大山、水平線のかなたに見え隠れする竹島、林立する風力発電用の大風車など、旅人を飽きさせない風景が続いていた。

山陰の3大絣産地

1) 倉吉絣

2日目の午前中に福井貞子絣資料館を訪問した。福井貞子氏は創作的な表現を多彩に展開している作家で、氏の豊富なコレクションを前にして、倉吉絣の多種多様な柄と文様について詳細な解説をいただいた。

セミナー参加者のうち、熱心な絣探求組は、午後も再度資料館を訪問して絣の収蔵品や資料に取り組んでいた。

2) 広瀬絣

3日目の午前中に広瀬絣を見学した。広瀬絣の最大の特徴は「まかせ」という作業があることで、独特の絵台を用いる精密な手作業から斬新なデザインが生まれる。広瀬絣センターで、衰えていた広瀬絣を復興した天野圭氏の娘さん永田佳子氏から広瀬絣の特徴と製作工程の詳細を解説していただいた。次にお孫さんの天野尚氏の主宰する天野工房を訪問し、藍染めと織布工程を見学させていただいた。

3) 弓浜絣

3日目の午後に弓浜絣伝承館を訪問した。まず、有機栽培を実践しているEM自然環境システムズの渡部敏樹オーナーの綿花畑を訪問し、開花し始めた薄黄系の可憐な綿花を見学した。次にビデオと資料により、弓浜絣の特徴と製造工程の解説が

あった後、弓浜絣協同組合の村上理事長と、鳥取県指定無形文化財保持者嶋田悦子氏のお話をうかがって、持参された織物サンプルを見せていただいた。



足立美術館前にて



広瀬絣センター



天野工房

美術館、散策、食事など

1) 足立美術館

3日目の朝一番に足立美術館を訪れた。横山大観をはじめとする近代日本画壇の巨匠達の名画を鑑賞し、米国専門誌にも高い評価を受けている日本庭園の美しい佇まいを満喫した。陶芸品の展示も含めて見所の多い美術館であった。



シンポジウム パネラーの方々

2) 古都散策など

2日目午後には倉吉市内の白壁土蔵群・赤瓦などを散策し、山陰の小京都「倉吉」の町並みの風情を楽しんだ。福井貞子氏の斡旋で倉吉市教育委員会文化財課の根鈴智津子主任に同行願い、市内を詳細にご案内いただいた。更に希望者は時間をかけて根鈴氏とともに倉吉市内を散策した。

この日の別行動組は、世界有数のラジウム温泉と言われる三朝温泉まで足を伸ばし、三朝館の大庭園露天風呂での立ち寄り湯を楽しんだ。

3日目の午後は境港市の水木しげるロードの散策で、ゲゲゲの鬼太郎をはじめ多くの妖怪キャラクターたちの出迎えを受けた。

2日目の昼食は珍しい郷土料理「餅しゃぶ膳」を楽しみ(真夏の暑さで汗びっしょりの食事ではあったが)、3日目には郷土産素材にこだわった素朴な地産地弁当「やすぎの幸」(バス中昼食)を味わった。1日目の懇親会での地元白ワイン(奥出雲)と地酒(大吟醸千代むすび)も好評であった。

シンポジウム「私の服飾研究」

ご担当の京都女子大学常見美紀子先生のお骨折りにより、1日目の午後、ホテルサンルート米子の会議室において、今回のセミナーの最初の行事としてシンポジウムが開催された。

第1部は若手研究者による「私の服飾研究」の発表3題、第2部は常見先生をコーディネーターとするパネルディスカッションがあり、活発な意

見交換を経て、今後の服飾研究の方向を模索する契機になったと感じた。若手研究発表者兼パネラーは次の3氏であった(詳細は要旨集参照)。

大澤香奈子氏(平安女学院大学)

末久真理子氏(目白大学短期大学部)

鈴木 桜子氏(杉野服飾大学)

謝辞

今回の3大絹産地の訪問は、日本女子大学教授小笠原小枝先生のご紹介によるもので、訪問先へのアポイントその他で大変お世話いただいたことに深謝します。(夏期セミナー担当 伊藤一郎)

***** お知らせ *****

下記のように開催を計画しています。詳細は追ってお知らせいたします。

■2007(平成19)年度 論文発表会

開催日:2008年3月1日(土)

会場:日本女子大学

東京都文京区目白台2-8-1

■2008(平成20)年度 第9回総会・大会

開催日:2008年5月17日(土)~18日(日)

会場:女子美術大学 相模原校舎

神奈川県相模原市麻溝台1900

***** 会員から *****

『夢つむぎーひとはり一針のあゆみー』

櫻井映乙子著(2007年3月発行)



和洋女子大学に奉職し48年、本年3月の定年退職を機に、中国を中心とした海外の刺繍関係の収集品と、指導するうえで必要な参考資料として創作した作品の一部を集大成としてまとめました。(著者)

◆会計報告

①服飾文化学会 2006(平成18)年度収支決算書 (06.4.1～07.3.31)

	予 算	決 算	増 減	備 考
収 入				(単位：円)
(1)年 会 費	960,000	981,000	-21,000	@6,000×156件
(2)入 会 金	15,000	14,500	500	@3,000× 15件
(3)年間購読料	36,000	21,000	15,000	@1,000× 10件
(4)学会誌掲載料	600,000	160,800	439,200	@ 500× 9 件
その他	0	33,128	-33,128	@3,000× 13件
前年度繰越金	149,901	149,901		審査料含む
合 計	1,760,901	1,360,329	400,572	利子¥128含む
支 出				
(1)経費				
1)総会運営費	100,000	100,000	0	
2)学会誌発行費	800,000	1,044,798	-244,798	
3)通 信 費	70,000	99,110	-29,110	
4)会報発行費	180,000	107,027	72,973	会報No12
5)事務用品費	40,000	56,543	-16,543	
6)会 議 費	70,000	35,786	34,214	
7)交 通 費	20,000	1,790	18,210	
8)雑 費	10,000	0	10,000	
(2)事業費				
1)事業費A	30,000	0	30,000	研究例会
2)事業費B	100,000	97,453	2,547	論文発表会
(3)広報費	20,000	0	20,000	
(4)予備費	320,901	0	320,901	
小 計	1,760,901	1,542,507	218,394	
(5)次年度繰越金	0	-182,178		
合 計	1,760,901	1,360,329		

②特別会計収支報告 2003(平成15)～2006(平成18)年度

	収 入	支 出	現在高
○名簿作成費(大会余剰金)	256,000	277,501	-21,501
○ホームページ関係費 (夏期セミナー余剰金)	1,452,592	492,716	959,876

③服飾文化学会 2007(平成19)年度収支予算 (07.4.1～08.3.31)

	予 算	前年度	増 減	備 考
収 入				(単位：円)
(1)年 会 費	960,000	960,000	0	
(2)入 会 金	15,000	15,000	0	
(3)年間購読料	30,000	36,000	-6,000	
(4)学会誌掲載料	600,000	600,000	0	
その他	0	0	0	
繰越金	-182,178	149,901		
合 計	1,422,822	1,760,901		
支 出				
(1)経費				
1)総会運営費	100,000	100,000	0	
2)学会誌発行費	500,000	800,000	-300,000	
3)通 信 費	90,000	70,000	20,000	
4)会報発行費	180,000	180,000	0	
5)事務用品費	60,000	40,000	20,000	
6)会 議 費	50,000	70,000	-20,000	
7)交 通 費	20,000	20,000	0	
8)雑 費	10,000	10,000	0	
(2)事業費				
1)事業費A	30,000	30,000	0	研究例会
2)事業費B	100,000	100,000	0	論文発表会
(3)広報費	20,000	20,000	0	
小 計	1,160,000	1,440,000	-280,000	
(4)予備費	262,822	320,901	-58,079	選挙費用含む
合 計	1,422,822	1,760,901	-338,079	

☆名誉会員

石 山 彰 平成19年 5 月

☆新入会員 (平成19年 4 月～)

正会員

飯 塚 有 葉 文化服装学院
伊地知 美知子 文教大学
伊 藤 亜 紀 国際基督教大学
大 崎 綾 子 東京都
沢 森 真 弓 昭和女子大学
末 久 真理子 目白大学
平 田 素 子 長崎玉成短期大学
布 台 博 和洋女子大学
角 田 千 枝 相模女子大学
松 本 力 映像作家
宮 澤 俊 恵 共立女子大学
諸 井 葉 子 埼玉県

学生会員

江 良 智 美 お茶の水女子大学
佐 藤 真利恵 目白大学
長 尾 順 子 日本女子大学
吉 永 亜紀子 慶應義塾大学

☆退会者

佐 藤 衛 子 平成18年 3 月
菅 原 由紀子 “
永 野 順 子 “
広 瀬 あかね “
伊 藤 順 子 平成18年 5 月
石 山 正 泰 平成19年 3 月
木 下 真 実 “
三 石 幸 夫 “
高 野 美 栄 “
田 中 和 子 “
辻 ますみ “
盛 田 真千子 “
榎 本 春 栄 平成19年 5 月
永 井 房 子 “

※敬省略・五十音順

会 報 No.14：2007(平成19)年10月発行

編集発行人：服 飾 文 化 学 会

事務局：101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1

共立女子大学 被服意匠研究室

TEL,FAX;03-3237-2496

E-mail;isho@s1.kyoritsu-wu.ac.jp

URL;http://www.fukushoku-bunka-gakkai.jp